

第1回 アドバイザー意見聴取

日時：2021年 8月 24日（曜日）13:00-18:00

場所：大手公民会館 2F講義室

出席アドバイザー：倉田直道先生、矢野和之先生、山下裕子先生

アドバイザーの意見要旨

1 エリア全体

- ・現状の公共事業は所管課のみで検討していることが、色濃く反映されてしまっている
- ・ベンチなどの憩う場所があれば、利用する人がいるというのはまちのポテンシャル
- ・文化の土台があることはポテンシャル
- ・天守があることだけに依存しすぎない姿勢が大切

2 交通

- ・自動車の速度も速く、自動車運転手が交通弱者に配慮がない街だという印象をもった
- ・現行の交通計画の変更余地を整理し、段階的な施策実施による長期に渡る取り組みが必要
- ・自転車で周遊しやすい都市規模である。自転車や歩行者優先のエリアとするのが望ましい
- ・人の移動手段が大きく変わろうとしている時代を先取りしたい

3 松本城二の丸周辺

- ・天守の見せ方、道路、堀を全体として捉え景観検討する必要がある
- ・駐車場から公園まで楽しめる演出や動線デザインが重要

4 旧開智学校・中央図書館周辺

- ・旧開智から松本城公園までの動線デザインは重要課題
- ・観光客だけでなく、市民の居場所としての文教地区を目指すべき
- ・図書館は市民の居場所としてあり方を検討すべき
- ・徒歩アクセスの選択肢が複数あることがポテンシャル

5 市庁舎

- ・「市民とともに」をどう具現化していくかが焦点となる
- ・庁舎を含め、公共施設を建設する場合は特に、立地を踏まえた評価基準を定めた提案型のプロポーザルを実施し、クオリティコントロールすること

6 榊形跡広場・女鳥羽川周辺

- ・交差点の鍵型の道路形状は城下町の名残であり、エリアの資産だといえる
- ・形状を活かした整備や仕掛けを行うことが理想
- ・都市のメリハリは歴史的な場所や空間をいかに新しくデザインできるかにつきる

7 大名町通り

- ・ビジョンに合わせて広域的に交通計画を行うことで、質の高い空間の実現が望める